『日常診療における自然療法の導入』

「自然療法」の原理は一般に以下の７つに表現されます。1.自然の治癒力　2.身体になるべく侵襲をあたえない　3.原因を探求　4.全人的治療　5.予防的医療　6.心身の健康　7.医師は教師。すなわち、手術や投薬によって治療する"現代西洋医学"を実践するのはもちろん基本ですが、慢性的な病態、生活習慣と切り離せないストレスや心理的な問題を抱える方、長期的に体の不調を感じる方などに対し、患者さんと一緒になってケアし改善してゆくという点が、自然療法の大きな特徴です。その中で医療現場に取り入れることができるものは、エビデンスがしっかりした療法であることが不可欠になります。私たちは様々な自然療法の中から、すでに実践している先生方を交えて討論し、明日の日常診療にすぐ応用できる自然療法を確立させるために、『日本臨床自然療法研究会』を立上げました。研究会には、開業されている先生方をはじめ医療従事者の方が多く参加されています。

今回、日本補完代替医療学会のご協力のもと、本学術集会の中でのサテライトセミナーとして、第16回研究会を共催させていただく運びとなりました。今回は日本においていかに自然療法を臨床的に日常の診療に用いていくか、また自然療法先進国の米国における実際の例を検討します。また、実際に医療現場で使用されているサプリメントとして富士化学工業株式会社のアスタキサンチンの最新知見を例に医療現場での応用を検討する際に参考とするエビデンスのあり方を検討します。

この機会に、ぜひ、当研究会の目的と活動を知って頂き、そしてもしこの会の趣旨にご賛同いただけたなら、今後は、メンバーとしてのご参加も、心よりお待ち申し上げております。

プログラム

日常診療における自然療法の実践のすすめ	伊藤　まゆ（日本臨床自然療法研究会　会長）
米国における自然療法の実施例	ジェフリー・ストロング（同研究会アドバイザー）
アスタキサンチンの最新知見	富士化学工業株式会社　リテール営業本部 学術部長　山下栄次

日本臨床自然療法研究会の歴史

日本自然療法研究会　http://www.cfir.jp/　　設立：２００７年８月

会　　長　伊藤まゆ（M’ｓクリニック南麻布　院長）
副 会 長　粟屋　透（たま循環器科・内科　院長）
幹　　事　平良　茂（ハートフルクリニック　院長）
学術顧問　鈴木信孝（金沢大学）、上馬塲和夫（帝京平成大学）
アドバイザー　自然療法医　ジェフ・ストロング（金沢大学客員准教授）

これまでの活動内容から：

1. ピクノジェノールの臨床報告
2. がんの補完代替医療の現状と問題点
3. 緑茶カテキンの機能と臨床への試み
4. 日本補完代替医療学会を通してみた、補完代替医療の展望
5. 機能性素材総論：ビタミン
6. 緑茶に含まれるユニークなアミノ酸、テアニンの機能
7. 心理学・行動科学から学ぶコミュニケーション～患者さんとの信頼関係構築とモチベーション～
8. コエンザイム Q10 の最新情報について
9. CoQ10 とミトコンドリア、ハートフルクリニックの統合医療&アンチエイジング医療
10. 医薬品とサプリメント、製品開発の違い
11. 健康支援科の位置付けとビタミン外来の理論とその実践
12. 誰も教えなかった医療現場で役立つメタボ特保の重要知識 ～いよいよ始まる特定健診にあわせてメタボ特保の臨床応用に迫る～
13. メタボリックシンドロームに対するアスタキサンチンの可能性～過酸化脂質の抑制および筋肉の持久力の向上～
14. ドーピングの基礎知識～知らないではすまない、サプリメントとドーピングの関係～
15. 協和アガリクス茸抽出液、低分子成分の有用性 ～マウス抗腫瘍活性及びヒト臨床試験報告～
16. サプリメントとホルモン補充療法：その１　予防医学の観点からのサプリメントやホルモン補充療法の必要性 ～投与前検査について～
17. αリポ酸の最新動向、研究報告
18. サプリメントとホルモン補充療法その 2
19. バクテリアセラピー　新しい乳酸菌の応用方法
20. 婦人科における自然療法の臨床的応用　－　これまでの実施例の今後の可能性について
21. 東西両医学の融合を目指して：生命の科学アーユルヴェーダの発見
22. アメリカにおける自然療法の位置付け（教育から実践まで）
23. ANK 免疫細胞療法のガン治療への応用について
24. サプリメント素材の安全性確認～BHN アガリクスの場合

25. 第 13 回日本補完代替医療学会サテライトシンポジウム
26. NPO 腰痛、膝痛チーム医療研究所の目的と活動について
27. 補完代替医療におけるガゴメ昆布フコイダンときのこテルペンの役割～基礎から応用へ～

問い合わせ先：日本臨床自然療法研究会　　info@cfir.jp

アスタキサンチンの最新知見

山下　栄次
富士化学工業株式会社　リテール営業本部　MN 学術部長

アスタキサンチンは、β-カロテンと同じカロテノイドの一種で、エビ・カニなどの甲殻類、タイ・キンギョなどの体表、サケの筋肉や卵など、天然特に海洋に広く分布する食経験豊富な赤橙色の色素である。近年そのアスタキサンチンが強力な抗酸化作用（特に抗脂質過酸化）を有し、しかもプロオキシダント（酸化促進剤）になりにくいこと、その活性は細胞膜で発揮されることが見出され、さらに、眼精疲労回復作用、筋肉　疲労回復作用などの抗疲労作用、糖尿病腎症進展抑制や血圧上昇抑制、中程度高脂血症改善や抗肥満作用など生活習慣病予防に関する機能性が報告されるなど、疾病予防に貢献し得る大型サプリメント素材として業界から期待されるまでに至っている。

弊社では、一般向けリテール商品の開発と販売に加え、3年前より医療機関向けサプリメントとスキンケアベースを上市し、現在では全国1300軒以上の医療機関で取り扱われるまでに至っている。

本サテライトセミナーでは、眼精疲労に対する効果などアスタキサンチンの臨床試験によるエビデンスの数々と、ごく最近報告された肝臓のメタボリックシンドロームといわれる非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の予防における[AK1]有用性と理学療法の分野で注目されている廃用性筋委縮に伴う毛細血管退行に対する予防効果など最新知見を紹介する。

共催：日本臨床自然療法研究会
富士化学工業株式会社